

『琅』 二十五号への手紙

宗内敦 様

『琅』のすこぶる充実した復刊(?) 誠におめでとう存じます。早速にご送いただいたきまして有難く御礼申し上げます。何はともあれ先生の「教育時評」と、「二言、三言世迷い言」を一気に拝読いたしました。その舌鋒鋭い語り口はますます冴えわたって読む者を引きこんでまいります。とりわけ政治屋談義は「拍手」拍手、また拍手です。なでしこジャパンへの熱き思い入れも同感また同感で、私も明け方三時起きしてでも対外試合はほとんど欠かさずTV観戦しました(勿論、待ジャパンの方も)。レスリングのオリンピック種目の生き残りは東京開催の決定以上に喜ばしいことです。オリンピック騒ぎといいアベノミクスといい、とんだ落とし穴がありそうで、先生の炯眼で厳しい警鐘を発信し続けて下さい。

今回は読み応えのある作品が満載のようにお見受けします。他の方々の文章も拝読が楽しみみです。

秋になって体調をくずされぬよう、くれぐれもご自愛のほどお祈り申し上げます。まずは御礼のみにて失礼いたします。

宗内敦 様

九月一日 大久保廣行

宗内敦 様 号

ようやく秋めいた日が訪れた感じですが、お変わりないよう何よりです。『琅』25号拝受しました。ありがとうございました。いつもながら「連載エッセイ」を楽しく拝見しました。特に「拜啓、ワンウェイ・みずほ銀行殿」は、びっくりしながら、興味をもって読みました。自分ならどう対処するか問いつつです。文中、この世の中に

向けどころのない鬱積した怒りや怨念を抱え込む限らない数のパワハラ被害者がいる」とのご意見、その通りだと思いました。またすぐ後に「代々木NHKホール」の小さな見出しで「心温まる気持ちに浸らせてくれる」この世の明るい例をあげているのは、

全体のエッセイの格をあげています。筆者の力量だと思いつながら読みました。

取り急ぎ、一筆御礼かたがた寸感まで。

二〇一三年九月二日朝 関口安義

宗内敦様

さわやかな秋となりました。ご清栄の御事と存じます。このたびは「琅」25号をご惠贈たまわりありがとうございました。添付のご案内によれば、次号からは年2回刊の由、益々本誌にかけた学兄の壮なる意気がしのばれ大慶に存じます。「教育時評」は本誌の目玉とも言つべきもの故、一、二度のボツにこりずに(失礼ながら)大衆に身近な新聞などでぜひ所説を披瀝していただきたい。「世迷い言」フ

ジ銀事件最近暴力団への融資が暴露されていますが、そういう会社なのですね。論より証拠ですね。「祖父の断片」は日露戦争に参戦した老祖父との絆を描いて哀切である。益々のご発展を祈ります。

一〇月一日 鷲 只雄

宗内敦 先生

このたびは、「琅」第25号を送っていただ  
きまして、ありがとうございます。24号  
から2年、長かったです。お身体の具合が  
回復されているようで（ANAのエピソードで、ご旅行に出られるほどお元気になる  
れたと知り）安堵しました。25号で「教育  
時評」や先生のエッセイを読み、心の中で  
「ネット訪問者の拍手」の数に「1」を加  
えております。それから、山本文字さんの  
「墓標は語る」を大変興味深く読みまし  
た。フィクションなのか？ノンフィクションな  
のか・・・（？）時代によっては、活字が  
世に出ないような（皇室に関わる）内容も  
入っていますが、これが事実なのか？！と  
驚きでした。私たちが教えられた「歴史」、  
実は、都合の良いように刷り込まれてい  
るのかもしれない・・・と疑念が湧きます。  
ひとつの情報を鵜呑みにせず、違う角度か  
らも考えてみるこの大切さもこの話を読  
んで感じ、アンテナを高くしなければと反

省しました。このような話題でも、いつま  
でもオープンに出来る日本であって欲しい  
と思いました。

中山京子

宗内敦先生

ここ最近猛暑も一段落し、秋風が気持  
ちよく感じられるようになりました。お元  
気で過ごしでしょうか。

さて、このたびは琅をお送りいただき、  
ありがとうございます。「アップアップ  
でギブアップ寸前」なんてどんでもない！  
教育時評とエッセイ2本……、気迫のこ  
もった内容に感動しました。力強さと厳し  
さの中に、ほっこりとしたユーモアがあり  
なるほどとうなづいてみたり、ニヤニヤと  
笑ってしまったり……、すっかり、宗内  
節に魅了されてしまいました。他にも短  
歌あり、エッセイあり、小説あり……、パ  
ラエティに富んでいて、とにかくおもしろ  
い。

大学教員とカウンセラーの二束わらじで、  
バタバタと忙しい毎日ですが、この本のお

かげでだいぶ癒されました。感謝です。  
季節の変わり目は体調を崩しやすいので、  
どうぞお体を大切になさってください。

鈴木明美

宗内 敦様

「琅」25号を送っていただきありがとうございます。  
前回は、2011年9月  
でした。その後、「二言、三言、世迷い言」  
を2011年12月に送っていただきました。  
いろいろな心配りに感謝しています。それ  
以前にも、何冊も送っていただきました。  
「先生、出番です」、「エッセイ、十三分の  
一」、「自伝風エッセイ、演歌つれづれ」等  
です。そのたび、兄の著書を興味深く、楽し  
く読ませてもらいました。

また今回「25号」の教育時評の「メール  
冤罪事件・・・」については、昨年11月、  
朝日新聞の論壇に載っています、喜んで、  
その日の内に切り抜きしました。

卒業後、会う機会がほとんどないのにも  
拘わらず、これだけいろいろなることを知ら  
せ、教えてもらえると、時空を超えて、心

の底からの話を聞いた感じが強くいたしません。

今回の二言、三言、世迷い言には、ブログ開設との話が載っていました。宗内さんも仕事柄パソコンは必須の道具なんだなあと、しかもそれを駆使していると感心しました。わたしの場合、パソコンはメールのやりとりしかできなくて、しかも息子の「お古」をあてがわられているという状態で、時々触る程度のつきあいとなっています。

今回のエッセイは、情報量が多いですね。一つ一つは興味深く読むのですが、五つ六つ前のことを忘れてしまつて、これはいかんとメモして読み直す始末です。サツカー・政治批評・家庭菜園・ネット社会功罪・東北大震災・などでしこジャパン・後期高齢者・不遜な医者・無垢なる子ども・長谷川等伯のこと・などでしこジャパン・大相撲のこと・体罰と教育・みずほ銀行の対応……。これらのエッセイを読み終わつたとき、別の何かを読みたくまりました。以前送っていたいただいた二言、三言、「世迷い言」の第

三部・人は何故書くのか、です。再び読んだ次第ですが、これがなかなかいい。取り上げた事例、自身の苦労話、人の欲求の話、伝えようとするのがよくわかる話でした。山梨県の芸術文化講習会の講演記録とのことです。聞いた人たちはさぞ感銘をうけたらさうと思います。

書くと言うことは、自分に負荷をかけること。年齢と共にこの負荷から逃れようとはしますが、私も、もう一度考えなおして良いかも知れません。

連載エッセイに後期高齢者の話がありました。私が、私もこの5月に後期高齢者の通知が来ました。年金、健康保険、税金、等、良いことは一つもありません。しかし、あたまを使つて、なにかやるうとする日常を持ちつづけたら。そうなれば、生活が若返るかもしれませんね。宗内さんたちの活動（書く情熱）が、若々しい元気を与えてくれるものと期待しています。

「琅」25号につきましては、他の作品も楽しく読ませてもらいました。

「額縁」川柳徒然草は、上野一彦氏の瓢瓢

たる文章の流れに感心しました。毎回、この自然で、暖かな文章の流れに感心いたします。川柳への暖かい思い入れが、伝わってきます。「曇標は語る」（山本文子氏）のエッセイは、ちょっとびびくりしました。日本の古代文化が朝鮮から渡来した人たちの影響が強かったことは理解していました

が、この「日本イコール百済説」はなかなか理解できません。こういう見方、考え方もあるのか、反論したり、疑問を投げかけたりする人が多いかも知れない、と思いましたが、「アイ・ラブ・パリ」（松村茂治氏）のエッセイは、英語で話しかけてくるフランス人の話、スリグループの小娘たちの話、トイレの話、地下鉄の話、とコンパクトにまとまっていて、情景もわかりやすく読みやすいエッセイでした。小説「祖父の断片」（大宮純氏）は、時間の差をうまく扱っている書き方に、感心しました。孫への思い、祖父の追憶、いろいろな情がもりこまれていく感じでした。小説「たかしくんの1（いち）」（依田茂夫氏）は小説全体が臨場感にあふれていて、一気に読めました。

依田氏の文章力でしようか。知恵遅れの子、その周りの子、愛情ある先生、その周りの状態も含めて、リアルにうまく書けていると思いました。

(2013・9・14) 川合道朗

宗内敦様

歩いたりしますと汗びっしょりになりませんが、朝夕爽やかさを覚える候となりました。この夏の、しつこい猛暑日进行、別天地に住む心地がいたします。お変わりございませんか。

「現25号」ようやく読み終わりました。迂闊にも、1年間のプランクを気づきませんでした。○

皆様方の作品興味深く、交流あるいずれの同人誌にもない喜びを味わわせていただきました。

私のはずれの点はご容赦いただき、別紙の感想です。

教育時評 宗内敦

「いじめ」「自殺」という問題が起きる度、

どうしても自分の同年代のころと比較してしまします。

私が直接知る人で自殺したのは、三十代の女性(事故だったかも)一人きりです。

十代の少年少女の例を、ぜんぜん聞いておりません。

私も「いじめ」の標的にされました。ついにこらえ切れず、「先生に告げ口する」という最後手段を取らざるを得ませんでした。

その後空襲に遭い、田舎へ疎開しましたところ、そこにも「いじめ」がありました。しかし、「先生」は助けにも救いにもなりませんでした。「先生」は絶対の存在だと、悪たれどもでさえ承知し、暗黙の了解が成り立っていた甲府の学校との相違が、シヨツクでした。我慢して時の過ぎるのを待つしかなかったわけですが。

そもそも「死」とはなにか、知りませんでした。焼夷弾の雨が降る中、怖くはありませんが、怖さと死とが結び付かなかつたのです。人にも「死」があると、真剣に考えたのは高二になってからでした。

甲府の小学校(国民学校)のか弱い生徒にとり、「先生」はいわば「駆け込み寺」でありました。

哀歎抄 尾崎文英

私は短歌、俳句と縁がありませんで、以前申し上げたかもしれませんが、歌集、句集をいただきますと、一ページたった二、三の作品を、理解するのに散文の数倍もの時間がかかります。それでも贈ってくくださった方へ礼の意を伝えねばと、努力します。出来上がった感想は、結局私の勝手な作文になってしまいますが、「有り難うございました、ゆつくり拝見いたします」でお茶を濁すつもりだと思います。

「額縁」川柳徒然草 上野一彦

川柳の良さは、端的、明快、わかりやすさだと思います。短歌俳句が苦手の私も、朝日新聞の時事川柳と、山梨日々新聞の文芸欄へは目を通します。

私自身の心の内をビタリと当ててくれたとき、気がつかなくなつたものの見方を示してもらえたとき、うれしくなります。

サラリーマン川柳も折に触れ目にします。

悲哀をジョーク、笑いにつつんでしまいう精神の豊かさに感激することしばしばです。ただ私は、地位とか役職を気にしなくてよい職業でしたので、サラリーマンの哀歎の実体験は乏しいのですが。

上野さんの解説(?)面白く拝見。

墓標は語る 山本文子

あれ、我が国は百済に乗っ取られたのか? 読み進めて次第に妙な気分がしてまいました。

ことによると、おれの先祖も百済人がもしれんなあ、ならば、もつと出世したつてよいものを。フト、そんな気にさせられました。

奇想天外。しかし史実とまともに向き合い、力むのでなく、フィクションの変わり種と解釈するならば、まことにユニークな発想。私にもSF的な小説を書いてみたいという、分不相応な目論みがあるのですけれど。

アイ・ラブ・パリ 松村茂治

私は日本から一步も外へ出たことがありませんし、これからも不可能。外国の事情

はテレビ、映画、小説などをそっくり受け入れております。有名な観光地、風景、文化財……、映像や文章により堪能し、行つたつもり。

フランスとは文化の塊のような園、パリは芸術家ならずとも夢の都。

パリへの認識、印象がひっくり返りました。

外国の水道は日本のような具合に飲めないぞ、とか、イタリアを旅行する際、持ち物を一旦手から放したら失くなるものと思え、といった話を何人かから聞いておりますが。

トイレが危ない、小娘スリに気をつける。

松村さんの意図はそういうマイナス面を暴くことではない、と承知しておりますものの、驚きました。

二言、三言、世迷い言(十一) 宗内敦

「体罰」について。

私もゲンコツ、ピンタをよくとばしました。

若いころは、カッとなってという場合もありましたが、腹を立ててゲンコツ、ピン

タはいけない、と思うようになりました。腹を立ててる「フリ」をしました。

唯々として? 受けてくれていた生徒たちのうちに、あるときから反撥する者が現れるようになりました。古き良き時代私にとり)の終わりでした。

いまごろになり、「教職」に就いたのは誤りではなかったろうか、と感じております。いかなる理念のもとに、いかなる理想があつて、「教師」の道に進んだのか、ただの憧れに過ぎなかつたのではないか、おれは生徒たちに何を与えたのか、疑念が生じて来たのです。ゲンコツ、ピンタへの反省も、疑念に付随したものです。

小説を書くことは、人を書くことと言ってもよいでしょう。人を見つめるのは、己を見つめるのと同じであります。小説に足を突っ込まなければ、こんな気持ちにならなかつたかもしれませぬ。

祖父の断片 大宮純

難病を抱えておられる方とのこと。私も、あと何年書けるだろうかと、常に危惧しております。病にあえぐ方ですと、ひとつ

でも多く書いておきたい、と思われる点、切実であるにちがひありません。

この作品は多分、ご自身の身辺を基にして描いたのだと思います。自分のことを書く場合、祖父母の代にまで溯りますと、不明な点がいっぱい出てまいります、小説ならばそこを自由に補えまして、完成度が高まることでしょう。

私の現在進行中の小説へは、慎吾、純子、二人の主役が登場しますが、慎吾には私自身が投影されており、読み返して気に入らないところ多々。

これに反し純子はまったく架空の人物。どフィクションです。純子が常に生き生きとし、筆が滑らかに運びます。想像することの素晴らしさとも申しませうか。大宮さんのますますご健筆を祈念いたします。

依田茂夫

宗内 先生

山本文子氏の近代日本論「墓標は語る」には仰天いたしました。以前、本学の図書

館の片隅に、明治維新時の陰謀と欺瞞を記した「奇本」がありました。そこに書かれていたのがまさに、明治天皇・暗殺・すり替え説だったのです。明治天皇を近親者から切り離し、強引に行幸（遷都）を行つた意図も、そこにあつたのでは、と考えてしまします。

先生が病院で、「被害」に遭われた件、以前の誌面に加え、直に伺っていましたが、改めて拝見すると、本当に非道いはなしだと思ひました。医師にとって、患者は何百何千人の内のひとりでも、患者にとって命はひとつしかない。医学が進み、医療は進歩して、医道は衰弱しつつある気がします。見かけの対応が「患者さん」から「患者様」に変わつても、医師はPC画面ばかり見ている昨今です。

過日、尊敬できる精神科医が、知人の件で相談には乗ってくれ、診てくれたのですが、治療は断られました。理由は、精神疾患の多くは一生のお付き合いになるので、医師が責任をもって診られる人数は限られている。このケースは、無理をして自分が

見なければならぬ病状ではない。ということでした。そして、代わりに、信頼できる病院に、病状等を書いて、紹介してもらいました。

患者の人生を引き受ける覚悟で診療に当たり、責任の持てる最大限の対応をする。精神科と救急などの他科では時間の流れが違い、同列には論じられませんが、すべての医師に忘れて欲しくない覚悟です。

金子哲也

宗内 敦先生

この度は『琅』25号を賜りましてありがとうございます。ありがとうございました。

初の休刊年を経て、20周年&25号という輝かしい記念号でしたのに、それなのに、水を差すかのように御礼が大変遅くなりましたことを、心よりお詫び申し上げます。

実は次男がRSウイルスに感染致しまして、入院騒動となり、おろるバタバタしておりまして。長男のときは、2歳になる

まで風邪一つ引かせることはなかったのですが、今回は長男の鼻風邪から感染してしまっただけです。長男の症状がとても軽かったのです（まさかRSウイルスとは考えず）油断していたのですが、長男との接触を避けるべきだったそうです。幸い現在は快方に向かっておりますが、手痛い勉強となりました。

先生のエッセイはブログでも拝見しておりましたが、御本上の活字になりますと、何度も拝読しながら、立ち止まったり振り返ったり少し先に進んだり（もちろん自分の拙い文章は恥ずかしくてささっと通り過ぎましたが）という流れが自在にできるのが魅力ですね。特に次男を出産してからはパソコンに向かえる時間が極端に限られてしまいましたため、子どもたちを寝かしつける枕元やお鍋で煮込んでいる間のエプロンのポケットなど、いつでも拝読できるように常に御本と一緒にありました。まるで宗内先生がいらっしやるようにも思えて、私にとりましてはお守りのようでもありました。

みずほ銀行へのお怒りは、私も頭に血がのぼりましたが、皆さまも同じお考えだったようでして、たくさんの「拍手」がありましたね。単なる愚痴でもなく、ただの批判に終わるわけでもない痛快さに、誰もがひきつけられるのでしょうか。

上野先生の「額縁」川柳徒然草がとて面白く、私もつい指を折って考えてみたり、松村先生のエッセイの臨場感にハラハラドキドキしたりしました。また、エッセイ「墓標は語る」や小説「祖父の断片」の不思議な世界に入り込み、しばしば時間が経つのを忘れておりました。

外出といったら長男の幼稚園の送迎と日用品・食料品の買い物だけという毎日の中、嬉しい刺激をありがとございました。いつか「ドナ」のビールを飲むことを夢見ています。

それから…私がこんなことを申し上げるのもおかしいのですが、『琅』ホームページの掲示板で、赤羽さんのお母様へのご返信を下さり、ありがとございました。

お母様と電話で話すときはいつも「宗内

先生はどうしていらっしやるの？」、「宗内先生、お元気でいらっしやるかしら」と聞かれておりましたし、先生のホームページやブログも楽しみにしていらっしやる様子でした。赤羽さんが旅立つたのは、大学卒業後からわずか半年後です。直前の2年間、もつともお慕いし、もつとも可愛がっていただいた宗内先生は、お母様にとつても特別な先生なのだと思います。その宗内先生が、赤羽さんの思い出を掲示板で語って下さるなんて、お母様はどんなに嬉しかったことでしょう。

先日の台風は何事もありませんでしたでしょうか？ニュースでは八王子の被害状況が報じられておりましたので、先生の果樹園がご無事かどうか心配しておりました。大事なく実りの秋を迎えられますことをお祈りしております。そして宗内先生が、収穫された果物を召し上がりながら、溜まりに溜まったこれまでのお疲れを癒されますことを願っております。

お彼岸を過ぎましたら急に冷え込むようになりまして。

どうぞ、風邪など召されませぬよう、お気を  
つけ下さいませ。

蓬田澄子

【お願い】

この『琅への手紙』は、毎号、たくさん頂戴

しているお便りやコメントのなから掲載させて頂いています。もっといろいろ掲載させて頂きたいのですが、編集者の視力が低下し、お手持のパソコン入力は、次第にままならず、先月号あたりから、切り取ってそのまま転載できる、電子メールとインターネット上の『琅』掲示板に寄せられたものに限定されるようになってきました。そこで、『琅』へのお便りやコメントは、今後、電子メールか『琅』掲示板にてお寄

せくださいますなら、大変ありがたく、まことに勝手ながら、ここでお願ひ申し上げる次第です。  
(編集人)

【誌友・同人規定】(新)

『琅』の円滑な発刊といっそうの充実を図るため、若干の誌友・同人を求めます。

【誌友規約】

資格 特になし。  
会費 発行毎に1,000円(送料込み)  
原稿掲載費 1頁につき1,500円  
(但し、掲載の諾否は編集部一任)  
発行誌配布 2部

【同人規約】

資格 特になし(但し、これまでの作品を一編お送りください)  
同人費 なし  
原稿掲載費 1頁につき1,500円  
(但し、20頁を越える部分は、1頁につき1,000円)  
発行誌配布 2部:増部は実費負担。